藤樹記念館通信④

館長　横井　正

中江藤樹の精読書並びに著述

中江藤樹は、十一歳の時、聖人になることを志し、四書大全〈大学章句・大学或問・中庸章句・中庸或問・論語集註・孟子集註〉五経大全・性理大全・十三経・陽明全集等々、種々の漢籍を独学自修し、それらを実生活で修養することにより、朱子学でもなく陽明学でもない「藤樹学」という深遠な思想を打ち立てていきました。

初学は、武士として大洲藩に勤めていた十七歳の時、医師の招きで京都から「論語」を講じるために来ていた禅僧を介して「四書大全」を手に入れた時からです。その時の状況が年譜〈岡田氏本（※1）〉に次のように書かれています。「大洲の風俗武を専らにし、文学をもって弱なりとす」このような武士社会の風潮の中で、「昼は、終日諸士と応接し、毎夜深更に及んで業として二十枚見終わりて寝ぬ」〈年譜〉というふうに白文の「大全」を困学することになります。しかし、「先ず大学大全を読むこと、殆ど百編に及んで始めて暁得す。大学通じて後、語孟（※2）を読むに皆通ず」〈年譜〉とあるように、勉学は、熱意をもって進んでいきました。

「四書大全」精読後も、納得できないことがあれば独学自修するので、精読典籍が増えていくようになっていきました。

一方、著述については、啓蒙や解釈・教本など、漢籍の精読後にまとめたものや門人を教えるためのもの・門人の学習の求めに応えたものなど多岐にわたっています。具体的には、処女作である「大学啓蒙」をはじめ、「原人」「持敬図説」「藤樹規」「学舎座右戒」「論語郷党啓蒙翼傳」「孝経啓蒙」「翁問答」「鑑草」「大学考および大学解」「神方奇術」「小医南針」「捷経医筌」等々であります。ただ、藤樹の生前に刊行されたのは、「鑑草」だけでありました。

「大学啓蒙」については、藤樹二十一歳の〈年譜〉に「是年初学同志のために大学啓蒙を著す。其書専ら四書大全に従う。后これを見ていまだ精しからずして之を破る」と書かれています。

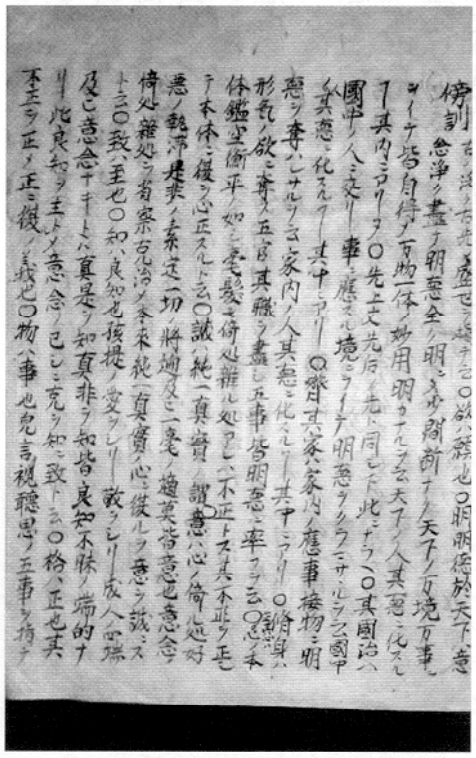
これに限らず、絶えず進歩と向上をめざす藤樹は、完結した著述を物足りなく感じるのを常としました。著述の変遷から如何に藤樹の思想が時とともに新たになっていったかが分かるのです。

そこで、前述した精読書と著述を時系列でご覧いただき、「藤樹学」が時とともに新たになり深化していくことを検証していただきたいと思い、小企画展を開催しています。

（九月三十日まで）

※1　岡田氏は、蕃山の甥の岡田季誠のこと

※2　語孟は論語と孟子のこと



藤樹自筆本「大学解」（一部）

賛助会員一覧

○ウェストレイクホテル可以登楼
○株式会社 大山建設
○株式会社 桑原組
○有限会社 宏和商事
○有限会社 白浜荘
○社会福祉法人 新旭みのり会
○ソエダ 株式会社
○株式会社 TADコーポレーション
○鉄屋商事 株式会社
○株式会社 戸井薬局
○とも栄 藤樹街道本店
○中村印刷 株式会社
○株式会社 中村測量設計
○ニッケイ工業 株式会社
○八田建設 株式会社
○有限会社 馬場塗装
○三田村印刷 株式会社
○有限会社 綿庄食品店

（五十音順）

あとがき

六月に、顧問である久保田暁一先生がお亡くなりになりました。大黒柱的存在で本会を支えてくださっていたことから、もうご指導を得られないと思うと残念でなりません。

今回、数名の方々から追悼文をいただきましたので、特集を組んでいます。皆様方とともに久保田先生を偲び、ご冥福をお祈りしたいと思います。

（H・M）